

第2回未来デザイン車座対話まとめ

1. インプットトーク4つの論点

1. ロボットが人間の作業を代替・拡張し、人間と機械の境界が曖昧になっている。人間が体験したことのない身体経験を可能にする技術が進展しており、都市や文化、社会のあり方を変える可能性がある。
2. 不老不死や寿命延長の研究に巨額の投資が行われている。身体・脳の老化課題を克服することで、生産年齢人口が増加し、健康寿命の延長と新たな未来が期待されている。
3. 人口減少の予測があったものの対応をしておかなかった。AIの強化学習やシミュレーションで、都市設計や効果的な個別施策の効果を検証でき、政策立案の精度を高め、都市や社会全体の最適化が可能になる。
4. デジタル技術を用いることで低密度の地方にもサービスを効率的に提供できる、21世紀型インフラへの転換が起きる。今後は、分化したものを新しく統合していくことが都市・地域のあり方を示す方向になる。

2. 全体対話3つの論点

1. 2040年の社会に大きな影響を与える技術の1つとして「AI」があげられる。今後のAIは少数意見も踏まえた、まちや地域の構成要素の最適解を導き出す可能性がある。
2. 様々な技術が実装されていくうえで、使い倒す側の視点（ニーズ）が大事。まちの特徴・個性とあわせて、様々なニーズを組み合わせていく必要がある。
3. 多様なまちが実現していくが、それぞれが役割を持ち、統合されていく。バーチャルと連動することで、人と土地の関係もN対Nになり、土地に縛られない暮らし方が実現する。

全体対話サマリー：「技術」の観点から見て、2040年のありたいまちの姿、課題・タブー、解決策は？

